

茨高の学習面での魅力のひとつは課外授業の充実具合と定期テストの回数です。課外授業は希望制で、通常授業日の放課後や長期休みの日中に行われ、高1、2年次は英数国を中心に自分のレベルにあったものを、高3からは理社も含め自分に足りないと思うところを補強することができます。私は通信の塾に体験講座を受けに行ったことがありますが、茨高に通う私には日々の授業の予習、復習、課外授業で十分だと感じ、入塾はしませんでした。レベルの高い仲間たちと受ける授業は学習意欲を刺激されます。しかし、難しくついていけない、ということはありません。わからないことがあれば友人や先生方が親切に教えてください、数学や英語は高2からは習熟度別に授業を受けることになります。しかし、習熟度別と言っても常時クラスがそのように分かれているわけではないのが他の私立高校と異なる点です。特進クラスなどはなく、たくさんの個性豊かな仲間たちと切磋琢磨することができます。また、茨高は定期テストの回数が年6回と、とても多いです。最初は負担に思いましたが、今となっては、これをこなしてきたからこそ身についた学力があると思っています。また、自分の弱点を知るきっかけになります。勉強はテストのためだけにするものではありませんが、自分を試す場が多いのと少ないのとでは最終的な学力の差は明白です。このように、インプットのための最適な環境とアウトプットのための適度な機会があることで、私は志望校に合格できたと思っています。

高校生になると中学生のときに比べ、行事やホームルームでクラスみんなで過ごす、という時間は減りますが、その分、研修旅行や文化祭、クラスマッチなどはとても濃い時間になります。その中で、私の一番の思い出は文化祭です。クラス企画ではみんなで意見を出し合い、出し物を決め、それを予算のなかでどう再現するかで試行錯誤。準備期間中、これをきっかけに新たに仲良くなった友人もたくさんいます。担任、副担任の先生とクラスみんなが一致団結してひとつの出し物を作り上げることはとても楽しく、「青春だな」と幸せを噛み締めていました。文化祭当日はすべてのクラスが普段授業を受けている教室とは思えないほどの装飾がなされ、アトラクションや展示物は有料級と思うほどのクオリティーの高さです。有志でのステージ発表もあり、ダンス、歌、楽器、劇、映画など友人の普段は見ることのできない一面を発見することができました。私はクラスもそれぞれ違う男女混合の10人超えの大人数で初めて映画を制作しましたが、卒業してからもそのメンバーで集まることなど、絆の深まりを感じ、一生ものの思い出になったと思っています。茨高の文化祭は勉強一筋ではなく、知恵や想像力を存分に発揮し、思いっきり楽しむことのできる茨高生を体現した魅力あるイベントです。

茨高の良いところは、何事にも一生懸命に取り組める仲間が多いことです。私が中3の時はどの私立高校にしようかと迷いましたが、茨高を選んで良かったと思っています。特進クラスなど学力別でクラス分けされる私立高校が多い中、茨高はそのような制度はありません。そのため、みんなが一生懸命です。そして、より多くの人と関わることができます。放課後には教室に残り、真剣に自習をしている人も多く、私もそんな環境だからこそ、ほぼ毎日完全下校時刻まで頑張ることができました。また、一貫生との関係も良好でした。私は部活動で一貫生と関わることが少なかったので高3からクラスが混ざる際は多少の不安はありましたが、みんなとても親切ですし、勉強熱心で良い刺激を与えてもらいました。

私は将来、報恩感謝の教えのもと、茨高で培った教養を次の世代につなげることのできる教員になりたいと思っています。茨高で先生方に教えていただいたこと、築きあげた友人たちとの絆、全てに感謝し、恩返しができる人になりたいです。